

(枝野幸男)推薦人一覧

2024年9月7日

人数	氏名	衆・参議員の別	選管記入欄
1	石川 香織	衆議員	
2	大河原 雅子	衆議員	
3	おおつき 紅葉	衆議員	
4	神谷 裕	衆議員	
5	近藤 昭一	衆議員	
6	下条 みつ	衆議員	
7	山岸 一生	衆議員	
8	柚木 道義	衆議員	
9	吉川 元	衆議員	
10	渡辺 創	衆議員	
11	石川 大我	参議員	
12	打越 さく良	参議員	
13	勝部 賢志	参議員	
14	岸 真紀子	参議員	
15	熊谷 裕人	参議員	
16	古賀 千景	参議員	
17	高木 真理	参議員	
18	田島 まいこ	参議員	
19	福山 哲郎	参議員	
20	森屋 隆	参議員	
21			
22			
23			
24			
25			

時代の先頭に立つ（政見）

枝野幸男

1. はじめに

いま日本は、大きな分岐点にあります。アベノミクスの金融緩和が限界を迎えたことで、日銀が利上げに踏み切り、株価が史上最大の乱高下を記録するなど、経済も混乱しています。この間、日本の国内総生産はドイツに抜かれて4位になり、一人あたりの実質賃金では、台湾、韓国に抜かれて38位となってしまいました。異常なほどの低賃金が多くの人々を苦しめ、日本の活力を奪っています。翻って政治に目を向ければ、自民党の裏金事件を受けて、国民の政治不信はかつてないほど高まっています。約10年続いたアベノミクス。その次の展望をどう描くのか。国民の根深い政治不信をいかにして払拭するのか。与野党を超えて問われています。今こそ、日本は古い政治に終止符を打ち、新しい時代へと進まなければいけません。

2. 「ヒューマンエコノミクス 人間中心の経済」

「ヒューマンエコノミクス 人間中心の経済」を実現する。わたしは日本の活路はこれに尽きると考えています。「人間中心の経済」とは、すべての政策の中心に「人」を置く考え方です。この「失われた30年」のあいだ、日本は「代わりはいくらでもいる」とばかりに人を使い捨てるような経済のあり方が横行し、政治がそれを後押ししてきました。しかし、今後の日本は、高い付加価値を持つ商品やサービスを開発するため、今まで以上に強力に人に投資し、労働生産性を高めていかなければなりません。同時に、社会保障や公共サービスの充実など、国民の生活を支える公的な基盤の強化も必要です。いずれの分野でも、大切なのは「人」です。多様な個人がその力を最大限発揮できる環境をいかにつくれるか。日本の可能性は、その一点にかかっています。

賃上げ。公共サービスの充実。教育無償化。子育て支援や若者支援。農業や漁業への所得補償。選択的夫婦別姓や同性婚など多様性の尊重。これらはどれも個人の力を最大限に引き出すための政策群です。「すべての国民が個人として尊重され、健康で文化的な生活を営むことができる社会」。これを実現することが、これからの日本の成長の基盤です。あらゆる分野で、政府が一人ひとりを力強く支えることで、日本全体の成長に繋げていく。それがわたしの考える「人間中心の経済」です。

3. 新たな時代の国民政党へ

かつて「自民党王国」といわれた地域でも、裏金事件を受けて、「これではさすがに支えきれない」という声が聞こえてきます。人口減少が加速する中で負担増ばかりが続く。一方で一部の政治家は裏金づくりにいそしみ、納税もしないで開き直る。怒りや呆れるのはまっとうな感覚です。立憲民主党はこれから、こうした国民の声に応えるために、新たな時代の「国民政党」へと進化します。それは、立憲民主党自身が国民の皆さんから「信頼される選択肢」となり、その存在感をもっと高めていくということです。

大都市から農村・漁村に至るまで、立憲民主党がいったい何を目指す政党なのか、地に足をつけて訴えていきます。立憲民主党は、政治腐敗を一掃する政党です。賃金を上げ、公共サービスを充実させる政党です。地域のひとたち、真面目に働く人たち、新しい挑戦をする人たちを応援する政党です。「人間中心の経済」という新しい時代のビジョンを掲げる国民政党です。

新たな政治を求める民意を受け止めるために、政党間の連携も、既存のあり方を再構築します。小選挙区制度である以上、選挙区で最大限一騎打ちの構図を作る。その姿勢は一貫して変わりません。しかしこれまでの野党間の連携については、時代の変化の中で、役割・意味づけが大きく変わっており、これに囚われてはいけません。今まで自民党を支持していた方々も含めての、幅広い枠組みを構築していきます。

4. 信頼できる政権の選択肢へ

2021年に代表を退いて3年、一議員として全国の様々な地域を回りました。能登半島の被災地にも伺いました。たくさんの人たちが置き去りにされている。いざという時に政治がその役割を果たせていない。かつて官房長官として経験した、東日本大震災のことも思い返して、情けなく、申し訳ない気持ちになりました。ここで立ち止まり、足踏みをしている場合ではない。

日本の「失われた30年」の責任は間違いなく、わたしたち野党にもあります。まっとうな政権の選択肢となり、健全な政権交代が定着する環境を作れなかった。その反省と教訓は、わたしの胸に深く刻まれています。その経験が、新しい政治を求める国民の声を受け止めるための出発点です。

今回の立候補については、わたし自身にも躊躇する思いがなかったと言えば嘘になります。しかし、今の日本の危機を前にして、一人の政治家として逃げるわけにはいかない。2011年、東日本大震災の際には、国民から「枝野寝ろ」と励ましてもらいました。2017年には「枝野立て」と背中を押してもらいました。そんなわたしだからこそ果たすべき役割がある。「人間中心の経済」を実現し、一人ひとりに寄り添うまっとうな政治への転換を成し遂げる。その先頭に立ち、次の世代が力を最大限に発揮できるようバトンを引き継ぐ。それが、私に課せられた使命だと考えています。国民の生活が大きな変化にさらされている今、わたしの力と経験、政治家として培った能力すべてを注いで、日本の新しい時代を切り拓く。国民の信頼に足る、新たな政権の選択肢をつくる。その責任をわたしに引き受けさせて欲しい。その想いで立候補を決意しました。

枝野幸男プロフィール

- ・1964(昭和 39)年
栃木県宇都宮市に生まれる。祖父が「憲政の神様」尾崎行雄のファンだったため、同じ読みの「ゆきお」と命づけられる。
- ・1993(平成 5)年
日本新党の候補者公募に応じ、いわゆる落下傘候補として埼玉で立候補。街頭演説一本で「市民の常識が通じる政治」を訴え初当選。
- ・1996(同 8)年
「薬害エイズ問題」に、新人議員として奔走。
- ・1997(同 9)年
33 歳で民主党政調会長に就任
- ・2009(同 21)年
民主党政権が誕生。予算の無駄を洗い出す「事業仕分け」人のリーダーとして活躍
- ・2011(同 23)年
史上最年少の 46 歳で官房長官に就任。約 2 カ月後に東日本大震災と東京電力福島第 1 原発事故が発生。不眠不休で働く姿に「枝野寝ろ」の声が飛ぶ。
- ・2017 年(同 29)年
ネット上でわき起こった「枝野立て」の声に応える形で、一人で「立憲民主党」を結党、20 日後の総選挙で 55 議席を得て野党第 1 党となる
- ・2020 年(令和 2)年
国民民主党、社民党から多くの議員が合流し、新しい「立憲民主党」が結党。再び代表を務める
- ・2021 年(同 3)年
総選挙で議席を減らし代表を辞任。一議員として全国を回り、様々な現場の声を聞く。
- ・2024 年(同6)年立憲民主党代表選挙に出馬。